

# 1. 評価結果概要表

平成 20 年 12 月 9 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0172901456		
法人名	医療法人社団 淳彩会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	旭川市永山4条4丁目9番1号 (電話) 0166-49-5581		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月9日

### 【情報提供票より】 ( 20年9月10日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <del>平成</del> 15 年 12 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 1 2 人, 非常勤 8 人,	常勤換算 10.36 人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	1 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円			
その他の経費(月額)	21,000~27,000 円			
敷 金	有 ( 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

#### (4) 利用者の概要 ( 9月10日現在 )

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	5 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低 73 歳	最高	101 歳	

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	永山循環器科クリニック 旭川ペインクリニック たくま歯科
---------	------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営する「やすらぎの里」は、地域の中での終の棲家を理念に掲げ、地域密着型事業所として地域住民や家族の信頼を得ている。居間を中心に南と東に広がる施設内は、天窓からの陽光も明るく開放感があり、随所に利用者が暮らしやすい設えに工夫されている。季節の良い時期は、中庭での日光浴や菜園での野菜の成長を楽しみ、地域の催しや老人会に出掛けている。またボランティアや中学生、保育園児との触れ合う機会が多く持たれ、利用者一人ひとりの意思を尊重し、職員はコミュニケーションを大切にケアに努めている。母体病院が隣接し、日々の健康管理が丁寧に行われ、利用者のゆったりとした自然体の暮らしが継続されている事業所である。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題として運営推進会議の開催、職員育成、市町村との関係、介護計画の作成、災害対策が挙げられていましたが、その全てにおいて、改善に向けての取り組みを実施しており、改善または改善に向けて努力をされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と職員は評価の意義を理解し、全員が自己評価に関わり、協議を行ない全体で取り纏めている。その過程の中で職員の率直な意見表出がなされ、共有化が促進されると同時に、自らのケアサービスの取り組み課題の明確化やその改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は前回の改善課題でもあり、2~3ヶ月に一度の開催に努力されてきている。地域住民の良好な協力を得ながら、事業所の現状や活動報告、災害時における協力要請など協議されてきている。今後はテーマを工夫し、事業所の専門性を活用しての開催や、行事などを組み合わせた日程調整、またメンバーの拡大など、会議の更なる活性化に向けての取り組みを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は家族との対話を心掛け、機会を捉えて利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えながら、気軽に意見や要望などを話してもらえる関係作りに努めている。年に一度の家族会を開催し、意見聴取の機会を得ている。内部、外部の苦情窓口の明示、苦情に対する対応の仕組みも整備されており、表された意見などは運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の資源回収への協力や地域中学生、保育園児との交流、実習生の受け入れやボランティアの導入と積極的な地域交流に取り組んできている。近隣住民との付き合いや、災害時における地域の協力的体制など、地元住民との良好な関係が構築されている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域との関係性を重視した事業所独自の理念、また理行が構築されており、地域密着型サービスの具現化に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎日のミーティング後に、理念、理行の唱和を通して理念を身近に捉えており、日々のケアサービスの実践に向けての共有が図られている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民や地元町内会との良好な関係が構築されている。地域の資源回収への協力や隣接している町内会館での催しに参加、またボランティアや中学生、保育園児の訪問など、地域の中で存在感ある事業所として積極的に交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に対する取り組みは、全職員で記入分担し協議を図り、全体で取りまとめている。職員の率直な意見表出がなされ、互いに理解を深めると共に、ケアサービスの取り組み課題の明確化やその改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3ヶ月に1度の開催が定着してきている。事業所の現状や行事活動報告、また災害時における協力依頼などの協議に努めているが、事業所運営への十分な活用には至っていない。	○	会議設定に努力されているが、更に事業所の専門性を活用しての開催や行事などを組み合わせた日程調整を行い、またメンバーの拡大を図り、会議の活性化に向けての取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、事業所の情報報告や介護保険業務に関する相談など、適時話し合いの機会を持ち協働関係を継続している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の金銭管理報告に合わせて、行事のお知らせや個別の近況報告がなされている。利用者の暮らしぶりや心身の状態などは、本人や家族の状況に合わせてきめ細かな情報伝達が行なわれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族とのコミュニケーションを大切にした対応を心掛けており、年に1度開催の家族会は勿論、色々な機会を捉えて、気軽に意見や要望などを話してもらえる関係作りに努めている。また内・外部の苦情受付窓口の案内、苦情対応システムが整備され、表された意見などは運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員でのサービス提供を重視している。建物構造上、2ユニット間での職員交代が有効な介護サービスに繋がる事を考慮し、ユニット間異動が実施されている。異動や離職の際には、利用者への影響に配慮した支援を行なっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修は、都度職員に案内し、職員の力量や段階に応じた研修参加を促している。研修後のレポート報告を職員間で回覧し、またミーティング時に話題として取り上げ、事業所内での共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との相互交換研修のほか、2ヶ月に1度、グループホームケア研修会が開催され、同業者の管理者及び職員間での実質的な相互交流や研修の機会が確保されており、ケアサービスの質向上への取り組みが行われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に当たっては、自宅訪問や事業所の見学を促し、顔見知りや当事業所の雰囲気馴染めるよう対応している。家族の協力を得ながら、本人が納得し安心感を持つての新生活移行に配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開設後5年を経過し、利用者一人ひとりが自分の家庭と思ってもらえるような、関係性を大切にした対応に努めている。日々の生活の中で、共感し合い、労わり合う自然な日常生活が営まれてきている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や独自の書式を工夫し、本人の心身の状況や生活暦の把握に努めている。日常会話からの聞き取りや、困難な場合は本人の全体の状態や仕草などから本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	暮らしぶりや健康状態などは、日々の記録から情報を得て、全職員の視点や気付きを出し合い協議している。また家族、医療関係者からの意向などを盛り込み、個別性ある具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者個々の状況により見直し期間が設定されている。定期的なカンファレンス、モニタリングを通して、本人の状況確認、評価が行なわれ、状態変化が見られた時には、現状に即した見直しが実施されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算体制の指定を受け、日常的な健康管理に努めている。また本人、家族の状況や希望に応じて、美容院や老人会、自宅への帰宅時の送迎など、事業所の有する多機能性を柔軟に活用した支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体組織の医療法人院長がかかりつけ医、施設長が看護職であり、毎週の訪問診療、月2回の定期受診のほか、24時間のサポート体制が充実している。希望のかかりつけ医の受診対応も受診・通院記録により情報の共有を図り、適切な医療支援が実施されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所理念にも「終の棲家」としての支援を掲げており、すでにターミナルケアに取り組んできている。重度化した場合における対応の指針を作成し、状態の変化に合わせて家族や関係者と繰り返し話し合いを行い、方針の共有やその支援に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を理解し、記録等の個人情報についての管理、保管の徹底が図られている。職員は利用者のプライドやプライバシーを大切にし、一人ひとりの尊厳に配慮した対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、その時々の本人の気持ちを尊重し状態を見極めながら、食事時間や入浴なども無理強いすることなく、本人のペースや希望に添っての支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に関する一連の作業は、利用者の高齢化に伴い職員中心ではあるが、利用者は本人の出来る事での手伝いを行い、楽しい会話を交わしながら食事を共にしている。職員は漬物作りやおやつ作りなど、経験豊富な利用者の持つ力を活かす場面の工夫に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は一応決まっているが、その限りではなく、週2～3回、本人の希望や状況に添った入浴支援に努めている。入浴時の会話も大切なコミュニケーションと捉えて、気持ちの良い入浴を支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は洗濯物たたみや個別の体操、紙細工やカラオケ、菜園での野菜の成長を楽しみながら、出来る事や楽しみごとのある生活をゆったりと過ごしている。職員は利用者との自然な会話を活かして楽しみごとの支援に繋げる工夫に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、事業所の庭での外気浴や焼肉会、また地域の催し物に出掛けたり、少し遠方へのお花見や紅葉狩なども取り入れて、気分転換や戸外での楽しみに配慮した支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害を理解し、午前5時から午後7時までの日中帯は施錠していない。職員は利用者の自由で安全な暮らしの維持に、見守りでの支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時対応マニュアルが整備されており、消火、避難誘導訓練、また通報訓練も合わせて実施されている。地域住民に協力を要請し、連絡網の作成など災害時対策に努めてきているが、様々な災害における実践的訓練は十分とは言えない状況にある。	○	夜間帯や地震等様々な災害を想定してのシュミレーションや、実践的訓練への取り組み、また災害に備えた備蓄品の確保も合わせて期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分摂取量を把握し、嚥下や身体状況に応じた食事を提供している。食事は栄養士作成の献立により、カロリーやバランスに配慮され、味付けにも気配りがされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを中心に、南・東に広がる事業所内は、全体的に広く開放的な印象である。特殊浴機器を備えた浴室、男子トイレの設置など利用者に配慮ある工夫がされている。天窓からの陽光は柔らかく、ブラインドでの細かな調整もされている。台所からの料理の匂いが漂い、ベランダから菜園を眺め、家庭的で季節感ある空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、クローゼットや洗面台が設置され、使い勝手の良い設えになっている。仏壇などの本人の大切な物が持ち込まれ、身体状況に合わせて、ベッドを使用せず床面での寝具利用など、一人ひとりが居心地良く安心して過ごせる工夫がされている。		

※  は、重点項目。